

経済建設常任委員会行政視察報告書

* 報告者

委員長名 野沢 宏紀

* 視察研修参加議員名 (計7名)

三上まどか、川原光男、小橋 薫、石井美季、澁谷敏明、小林卓也

* 視察研修日程

令和8年1月19日(月)～1月21日(水)の2泊3日

* 視察研修項目

1月19日(月) 佐賀市

「商店街活性化・わいわい！コンテナ2」について

1月20日(火) 鳥栖市

ホームタウンスポーツと協働したまちづくりについて

「産業団地(仮)サザン鳥栖クロスパーク」について

1月21日(水) 筑後市

「HAWKS ベースボールパーク筑後における経済活性化」について

「HAWKS ベースボールパーク筑後誘致への取組における意見交換会」

視察研修先・佐賀県佐賀市

視察研修項目・「商店街活性化・わいわい！コンテナ2」について

研修先対応者（名刺等）・研修風景（写真等）・研修資料等

名刺・写真・資料等

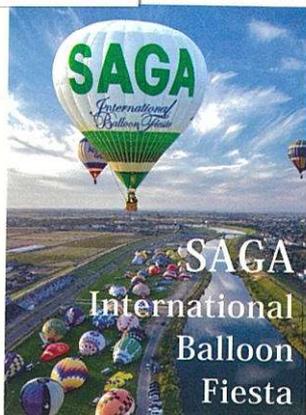
対応者：佐賀市経済部中心市街地振興室再生係長 土田 英之 様
大曲 慧 様



佐賀市 経済部
中心市街地振興室
再生係長

土 田 英 之
Tsuchida Hideyuki

〒840-8501 佐賀市栄町1番1号
TEL:0952-40-7104
FAX:0952-40-7399
E-mail:hdtsuchida@city.saga.lg.jp



佐賀市 経済部
中心市街地振興室
再生係

大 曲 慧
Omagari Kei

〒840-8501 佐賀市栄町1番1号
TEL:0952-40-7104
FAX:0952-40-7399
E-mail:komagari@city.saga.lg.jp

視察研修先・佐賀県佐賀市

視察研修項目・「商店街活性化・わいわい！コンテナ2」について

研修先対応者（名刺等）・研修風景（写真等）・研修資料等



視察研修先・佐賀県鳥栖市

視察研修項目・「ホームタウンスポーツと協働したまちづくりについて」

研修先対応者（名刺等）・研修風景（写真等）・研修資料等

名刺・写真・資料等

対応者：鳥栖市議会事務局 局長 江下 剛様

鳥栖市スポーツ文化部 スポーツ振興課 小川 智裕 様

施設係 時田 丈司 様

鳥栖市議会事務局



局長 江下
ESHITA

剛
TSUYOSHI

〒841-8511 佐賀県鳥栖市宿町1118番地
TEL 0942-85-3524 FAX 0942-85-3526
E-Mail gikai@city.tosu.lg.jp



鳥栖市 スポーツ文化部
スポーツ振興課

次長兼課長 小川 智裕
Ogawa Tomohiro

〒841-0034
佐賀県鳥栖市京町812番地
駅前不動産スタジアム内
TEL : 0942-85-3693
FAX : 0942-81-1361
E-Mail : sports@city.tosu.lg.jp



鳥栖市スポーツ文化部
スポーツ振興課 施設係

課長補佐
兼施設係長

時田 丈司
Tokita Jouji



駅前不動産スタジアム

- 第3種電気主任技術者
- 建築物環境衛生管理技術者

〒841-0034
佐賀県鳥栖市京町812番地
TEL : 0942-85-3522
FAX : 0942-81-1361
E-Mail : tokita-jouji@city.tosu.lg.jp

視察研修先・佐賀県鳥栖市

視察研修項目・「産業団地（仮）サザン鳥栖クロスパーク」について

研修先対応者（名刺等）・研修風景（写真等）・研修資料等

名刺・写真・資料等

対応者：鳥栖市議会議員 松隈 清之 様

鳥栖市経済部商工観光課企業立地係長兼産業団地推進係 香月 啓介 様

<p style="text-align: center;">鳥 栖 市 議 会</p> <p style="text-align: center;">議 長 松 隈 清 之</p> <p>自 議 会 事 務 局 宅</p> <p>佐賀県鳥栖市宿町一八一八番地 電話 ○九四二一八五二三二五 FAX ○九四二一八五二三二六 佐賀県鳥栖市秋葉町三二八一〇〇七 電話・FAX ○九四二一八一二五四五</p>	<p style="text-align: center;">鳥栖市 経済部 商工観光課</p> <p style="text-align: center;">企業立地係長 兼 産業団地推進係 総務主査</p> <p style="text-align: right;">香月 啓介 Katsuki Keisuke</p> <hr/> <p>〒841-8511 佐賀県鳥栖市宿町 1118 番地 TEL:0942-85-3606 FAX:0942-83-3095 E-mail:katsuki-keisuke@city.tosu.lg.jp 鳥栖市 HP: http://www.city.tosu.lg.jp/</p> <div style="text-align: right;"><p>鳥栖市は、サガン鳥栖と SAGA 久光スプリングスの ホームタウンです。</p></div>
---	--

視察研修先・佐賀県鳥栖市「ホームタウンスポーツと協働したまちづくりについて」

視察研修項目・「産業団地（仮）サザン鳥栖クロスパーク」について

研修先対応者（名刺等）・研修風景（写真等）・研修資料等



視察研修先・福岡県筑後市

視察研修項目・「HAWKS ベースボールパーク筑後における経済活性化」について

研修先対応者（名刺等）・研修風景（写真等）・研修資料等

名刺・写真・資料等

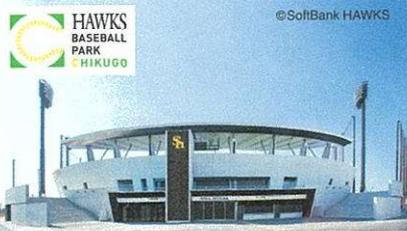
対応者：筑後市建設経済部商工観光課ホークスファーム連携推進担当係長

水田 進 様

意見交換会：筑後市議会議長 弥吉 治一郎 様

筑後市議会事務局 局長 小林 志麻 様

筑後市少年野球育成会 会長 中村 敏和 様



HAWKS ベースボールパーク筑後のまち

筑後市

建設経済部商工観光課
ホークスファーム連携推進担当係長

水田 進

福岡県筑後市役所

〒833-8601 福岡県筑後市大字山ノ井898番地
TEL : 0942-65-7024 FAX : 0942-53-4234
E-mail : mizuta-s025@city.chikugo.lg.jp
URL : www.city.chikugo.lg.jp

Chikugo City

議長
弥吉
治一郎

筑後市議会

〒八三三ー八六〇ー
筑後市大字山ノ井八九八
F A X 〇九四二(五三)四〇一三
T E L 〇九四二(五三)四二二八



福岡県筑後市
議会事務局

局長 小林 志麻
Kobayashi Shima

〒833-8601 福岡県筑後市大字山ノ井 898
TEL 0942-53-4013 FAX 0942-53-4228
E-MAIL gikai@city.chikugo.lg.jp



筑後市少年野球育成会

会長
筑後ジャガーズ代表理事

中村 敏和

〒833-0031
福岡県筑後市大字山ノ井 536 番地 3

TEL : 090-6778-7500
FAX : 0942-52-3570

視察研修先・福岡県筑後市

視察研修項目・「HAWKS ベースボールパーク筑後における経済活性化」について

研修先対応者（名刺等）・研修風景（写真等）・研修資料等



視察研修先・佐賀県佐賀市
視察研修項目・「商店街活性化・わいわいコンテナ2」について
報告者・野沢 宏紀
<p>*議員個々の考察と見解*</p> <p>佐賀市の「商店街活性化・わいわいコンテナ2」について視察をさせていただきました。佐賀市においては、中心市街地活性化に向けた取り組みとして、重点エリア（計画等）を設定し、中心市街地の活性化に向けた取り組みを推進中であります。「中心市街地活性化基本計画（基本方針）」では、（住む人を増やす）（来る人を増やす）→（住む人・来る人に街を歩かせる）→目的をもって街に来る人を増やす→（できる限り街を歩いてもらう）街なかにおける時間消費・人の流れ（回遊・消費行動）を増進する。そのことで、中心市街地の活性化、エリア価値の向上。街なかの魅力を引き上げることにより、来街者を呼び込み、街なかにおいて強い経済を生み出す、ことに繋がるのではないかと、とのことであります。「わいわいコンテナプロジェクト」のコンセプトとしては（1）事業背景として、社会問題等（人口減少時代、超高齢社会、労働人口の減少、中心市街地等に公園等が少ない、空き地・駐車場の増加）。求められる対策（延床面積の減少と空き地の増加による不動産の有効活用、歩いて暮らせるまちづくりが必要、より効果的かつ効率的な財政運営、施設の新設には慎重、気軽に休憩できる場所の設置）。（2）目指す街の姿として「様々な機能が集積し、多くの人々が活動する、歩いて暮らせるコンパクトな中心市街地」。（3）コンテナプロジェクトの特徴として「空き地の有効活用と街なかの回遊性向上を図る社会実験として実施。少ない予算で、すぐにでき、中心市街地の活性化に寄与」とのことです。そのコンセプトを基に、社会実験として「わいわいコンテナ1」が、中心市街地の銀行跡地に設置されました（平成23年6月～平成24年1月）。土地（借地）。コンテナ（地元建設会社が製作）。外構（市民、街なか再生会議（市民等）の委員、まちづくり会社社員、コンテナリース等の会社社員、市職員により整備）。成果（集客数14863人（7か月）。近隣商店への影響。課題（コンテナが分棟でないため、用途に応じた利用に支障）。回遊性の向上に課題（コンテナを訪れた人に街なかを回遊してもらう点においては、効果が得られず。回遊動線となる商店街や近隣商店の参画を図る仕掛けが不十分だった。接道の歩道幅が狭く、子ども連れが安心して来場できない）。「コンテナ1」は、社会実験終了後、サガン鳥栖の施設として約1年間活用後、民間団体の施設として活用中、とのことであります。次に「わいわいコンテナ2」についてであります。2つ目に取り組んだ理由として、「コンテナ1」は好評だったが、借地継続が困難だったため終了し、残された課題の検証を行うため、とのことであります。「コンテナ2」は、中心市街地の「1」とは別の空き地に設置（平成24年6月～）されています。配置計画として、「子ども達の元気な賑わいが期待される交流スペースを敷地の中心に据え、隣接する佐賀特有のクレーク沿いに雑誌図書館とテラスを配置。佐賀らしい水辺の暮らしを楽しめる空間とし、原っぱ、テラスを舞台にイベントにも対応できるよう計画」とのことです。土地、コンテナ、外構については、「コンテナ1」と同様の対応であります。運営については、市が「ユマニテさが」に委託等を行っています。成果（集客数は、令和5年で62771人、令和6年は66258人）。近隣商店への影響。また、「1」と違い、「2」では、チャレンジショップも行い、そこから本格出店者となった。場所の提供として、コミュニティ活動にも寄与できている、とのことであります。課題としては、「今後のあり方を検討中」とのことです。今回の視察では、中心市街地の活性化のためには、計画を策定し、その再生に取り組む必要性が重要であることを感じました。また、賑わいづくりのために、空き地にコンテナを設置し活用した取り組みには感心しました。空き地を有効活用する一つの方策としても、大変に参考になりました。恵庭市においても、中心地の活性化、商店街の活性化のためのヒントになるのではないかと、思います。</p>

視察研修先・佐賀県鳥栖市
視察研修項目・「ホームタウンスポーツと協働したまちづくり」及び「産業団地（仮）サザン鳥栖クロスパーク」について
報告者・野沢 宏紀
<p>* 議員個々の考察 *</p> <p>「ホームタウンスポーツと協働したまちづくり」について。鳥栖市には、日本有数の球技専用スタジアム「駅前不動産スタジアム（平成20年1月からのネーミングライツ導入により、令和4年2月～令和10年6月30日まで）」があります。施設の完成は、平成8年6月で、建設費69億5千万円（用地費30億8千万円）、収容人員24490人、敷地面積は、36118㎡。スタンド構造は、1・2階が鉄筋コンクリート、3階が鉄骨。駐車場は約1000台であります。この建設費等のほとんどが市の単費であり、当時としては相当思い切った決断だったそうであります。しかし、まちの発展とJリーグの育成の為にもこの施設が必要である、と判断した、とのことあります。課題等については、施設の改修等の予算をどう確保するのか、施設の運営主体をどうするのか、ということだった、とのことあります。指定管理等を経て、現在は市の直営となっております。それは、施設運営の安定性や継続性が重視された、とのことあります。立地については、JR 鳥栖駅（年間乗降客数は、約500万人）に隣接していることから、交通の利便性は良いとのことあります。Jリーグホームゲームが開催される場合は、多くの集客があり交流人口も増えますが、ホームゲームの開催がない場合の施設のあり方についても現状の課題であるとのことあります（基本的に公共施設であるため）。そこで、クラブチームの意向も考慮しながら、今後の施設の方向性（収支、財政改善）も課題である、とのことあります。この視察では、スポーツを通したまちづくりがまちの活性化（経済的にも）に何かしら影響を与えていることが感じられました。クラブチームの本拠地があることがまちの魅力でもあり強みでもある、とも思いました。そのことから、大変に参考になりました。</p> <p>「産業団地（仮）サザンクロスパーク」について。鳥栖市には、現在7つの産業団地があります。しかし、その他の産業用地はなく、市内の企業の増設や新たに進出したい企業の要望に応えることができない状況である、とのことあります。そこで、平成30年度に市内の複数のエリアから選定し、小郡鳥栖南スマートインターチェンジ周辺を候補地として、鳥栖市土地利用構想を策定しました。そして、事業化を検討するため各種調査（産業団地検討調査、サウンディング型市場調査、意向調査）を行ったとのことあります。その結果、小郡鳥栖南スマートインターチェンジへの県道アクセス道路の北側約34haを次期産業団地候補地とした、とのことです。開発手法としては、市の財政負担の軽減を図り、スピード重視の開発を目的に、民間提案を基本に市と協議して作成する事業計画に基づき、民間開発で実施する方針です。立地事業者の要件としては、製造業、情報通信業が分譲面積全体の4分の3以上を占めることとし、立地事業者の誘致・選定は、市と協議の上、実施するとのことです。ここでのポイントになるのは、スピード重視の開発を目的としている点で、その為に「地域未来投資促進法」を活用しているところです。この法律を活用することで、民間提案をベースに市と協議して作成する事業計画に基づき、民間開発で実施することになるのです。課題としては、優良農地であるため、耕作者への対応及び農業振興の支援。浸水想定区域であり、下流域への影響も考慮した排水対策。個人が有する土地等を譲渡した場合、税控除がない、などがあります。今後のスケジュールとしては、令和9年度から造成工事、令和11年度に建設工事、令和12年度には、操業開始とのことあります。恵庭市においても現在市街地の拡大等に取り組んでおり、スピード感を持った対応が求められているところではありますが、様々な課題等を整理していかなければならないところもあります。その様なことから、今回の視察については、一つの方策としての参考になりました。</p>

視察研修先・福岡県筑後市
視察研修項目・「HAWKS ベースボールパーク筑後における経済活性化」について
報告者・野沢 宏紀
<p>*議員個々の考察と見解*</p> <p>筑後市では「HAWKS ベースボールパーク筑後における経済活性化」について視察させていただきました。平成25年夏、福岡市にある「福岡市雁ノ巣レクレーションセンター野球場」の老朽化に伴い、球団は移転を検討。自治体に対して用地募集（提案）を実施しました。募集条件として、4万㎡～6万㎡で分割されていない土地。ヤフオク！ドーム（現PayPayドーム）からの所要時間（ICから20分以内、鉄道網）。20年以上継続した利用可能な土地。賃貸契約。提案者＝地方自治体、とのことであります。その募集に対して、福岡県など5県の34市町が手を挙げた、とのことであります。そこで、市では議会と一体となってファーム本拠地の誘致活動を進めました。また、8月13日に誘致に名乗りを上げた後、市民の声を球団に伝えるため、署名活動を展開し、当時の市民数（当時の人口約49000人）を大きく超える7万6千筆が集まった、とのことであります。9月25日には、一次審査を通過（4市）しました。そこで、筑後市周辺の「筑後七国」共同声明を発表しました。これは、5市2町の「筑後七国」では、県南の筑後市に日本一のファーム施設を誕生させるため、一致団結して誘致の実現を目指す、ものであります。そして、誘致活動を大々的に展開し、12月25日に誘致が決定されました。平成26年3月には「ファーム本拠地立地に関する基本協定の締結」。7月には「筑後七国とホークスによる地域連携協定の締結」。平成28年1月には「筑後市とホークスによる地域包括連携協定の締結」がなされました。そして、3月19日に「HAWKS ベースボールパーク筑後」が開業されました。「地域包括連携協定」に基づく取り組みとしては「スポーツ施設奨励金」「選手による学校訪問」「ホークス選手交流のつどい」「地域との交流」「小学校、幼稚園（保育園）への巡回スポーツ教室」「火の用心グランドゴルフ大会」「子ども会陸上・綱引き大会」「野球観戦招待及び優待事業」「ホークス応援ポスターサポーター」「ホークス筑後ファンクラブ」等があります。また「地域連携協定」に基づく取り組みとしては「筑後七国中学生野球教室」「選手の地域体験」等があります。観客動員数（2軍戦）としては、総来場者数として年平均で10万人前後であります。人口の推移としては、平成27年は、48339人、令和2年は48827人で、488人の増加とのことであります。経済的効果としては「来場者による消費活動」「選手・スタッフによる消費活動」「税収入」「宣伝効果」等がある、とのことであります。また、社会的効果として「青少年の健全育成」「スポーツ・健康意識の向上」「市民の連帯感や地域活性化」「定住・交流人口の拡大」等がある、とのことであります。今回の視察においては、関係者（市議会議長、筑後市少年野球育成会）との意見交換会も行いました。その意見交換会の中でも、ファーム施設を誘致したことが、地域の発展に大きく寄与していること、青少年の育成にも大きな影響を与えていること等のお話がありました。今回の視察では、球団のファーム施設は、その存在が、その地域におけるまちづくりや地域経済の振興に大きく影響すること。まちのブランド力、魅力度にも大きな関わりがあること。そして、青少年の育成やスポーツ振興にも大きな力が発揮されること等を感じました。恵庭市においても、プロ球団のファーム施設が誘致され、共々にまちづくりを進めていく、その様な関係が構築されれば、恵庭の未来の可能性は、もっともっと広がるのではないかと、思いました。そのことから、今回の視察においては、大きな示唆を受けたところであります。</p>

視察研修先・佐賀県佐賀市
視察研修項目・商店街活性化「わいわい！コンテナ2」について
報告者・三上まどか
<p>*議員個々の考察と見解*</p> <p>商店街活性化拠点「わいわい！コンテナ2」は、佐賀市中心市街地・中央大通り周辺商店街エリアに14年前に建てられ、空き地・空き店舗問題を背景に、コンテナ型店舗を活用して創業支援と回遊性向上を図る実験的商業施設として整備された拠点である。小規模事業者や若手起業家が低リスクで出店できる環境を提供し、商店街に新たな賑わいを創出することを目的としている。コンテナ活用の意義としては、①初期投資が比較的低い、②仮設的でありながらデザイン性が高く市民の手で作ることが出来る、③「実験的」「チャレンジ感」が視覚的に伝わる等がある。</p> <p>コンテナという形態自体が、従来型商店街との差別化要素になっており視覚的インパクトがあり、SNSとの親和性も高いと感じた。</p> <p>創業支援機能としての場でもあり短期・段階的出店が可能なおことから、その後、商店街内空き店舗へ展開する導線を形成することも視野に入れることが経済活性化にもつながり、単なるイベント型施策ではなく、事業者育成型の構造を持つ点も既存店舗との相乗効果が期待できる。</p> <p>課題としては季節の冷暖房機能の調整等や、収益的にはまだまだ厳しいという現実があり、運営会社の人となりで成り立っている点も上がっていた。</p> <p>今後は、観光導線との連携強化や、閑散期・夜間活用など、「点」のにぎわいから「線・面」のにぎわいへ発展できるかが今後の鍵である。</p> <p>わいわい！コンテナ2は、短期的な集客効果のみならず、創業支援や地域コミュニティ形成、商業人材育成という中長期的視点で評価すべき取り組みであり、本市の空き地の利活用にも通ずる事業であると考えます。</p>

視察研修先・佐賀県鳥栖市
視察研修項目・「産業団地（仮）サザン鳥栖クロスパーク」について
報告者・三上 まどか
<p>*議員個々の考察と見解*</p> <p>サザン鳥栖クロスパークは、九州有数の交通結節点である鳥栖市南部において、物流・商業・業務・居住機能等を複合的に導入することを目的とした大規模開発事業である。鳥栖市は、九州自動車道・長崎自動車道・大分自動車道が交差する交通の要衝であり、鉄道においても JR の主要路線が接続するなど、九州内外へのアクセス性に優れている。この地理的優位性を背景に、既に物流拠点や商業施設の集積が進んでいる。</p> <p>本事業は、そうした都市ポテンシャルをさらに高度化させ、広域物流機能の強化や、南部地域の都市機能再編、新たな雇用の創出を主な目的として推進されている。</p> <p>現地は高速道路 IC や幹線道路へのアクセスが極めて良好であり、広域流通・物流拠点としての適性は高い。九州全域をカバーする配送拠点としての優位性は明確であり、企業誘致においても大きな強みとなると考える。</p> <p>特に雇用創出効果は大きく、若年層の地元定着や U ターン促進につながる可能性があり、周辺商業施設との相乗効果により、消費循環の域内定着も期待される。</p> <p>一方で、単なる物流集積地にとどまる場合、夜間人口増加やまちのにぎわい創出には直結しない可能性があるため、産業機能と生活機能をどう融合させるかが課題である。</p> <p>令和 6 年 6 月には小郡鳥栖南スマート IC が開通し、サザン鳥栖クロスパーク開発事業は、鳥栖市の持つ交通優位性を最大限に活用した戦略的プロジェクトになり、地域経済の成長エンジンとなり得る事業となった。</p> <p>本市にとっても市街化調整区域の拡大に伴い、経済性や環境性、生活利便性等を統合した総合的な都市戦略のもと、段階的かつ計画的な推進が求められると考察する。</p>

視察研修先・佐賀県鳥栖市
視察研修項目・ホームタウンスポーツと協業したまちづくりについて
報告者・三上まどか
<p>*議員個々の考察と見解*</p> <p>鳥栖市は佐賀県東部に位置し、福岡都市圏へのアクセス性が高いことから、人口規模に比して経済活動が活発である。</p> <p>そのような地理的優位性を背景に、市はプロサッカークラブ「サガン鳥栖」を核としたスポーツのまちづくりを推進してきた。</p> <p>駅前不動産スタジアムはJR鳥栖駅から徒歩圏内に位置し、コンパクトシティ型のスポーツ拠点を形成している。試合開催日は市外・県外から多数の来訪者が訪れ、飲食・宿泊・物販など周辺経済への波及効果もある。</p> <p>サガン鳥栖は企業主導型ではなく、市民・地元企業・行政が支える「地域密着型クラブ」として発展してきた。</p> <p>市の直営管理で、当時は「市役所が潰れる」と言われる程の大博打であったとの話もあったがその経済効果や「スポーツ＝観戦」に留まらず、「地域コミュニティの媒介」として機能している点は大きな効果あると考える。</p> <p>鳥栖市は全国的には中規模都市であるが、Jリーグを通じて全国へ情報発信することで認知向上につながっており、スポーツクラブが「都市ブランドの広告塔」として機能している点は大きい。</p> <p>社会的効果としては、市民の一体感醸成や、子どもたちの夢・目標の創出、スポーツを通じた移住促進への副次的効果など「地域アイデンティティの形成」という無形資産の創出は、長期的なまちづくりにおいて極めて重要である。課題としてはスタジアムの多用途活用において、試合日以外の稼働率向上が必要である。</p> <p>鳥栖市の取り組みは、「小規模都市×プロスポーツ」というコンパクトな都市構造を活かした効率的な経済波及や、地域密着型クラブによる市民参加型まちづくりという、スポーツを単なる興行ではなく、「地域経営資源」として位置付けている点は素晴らしいと感じた。</p> <p>鳥栖市とサガン鳥栖の協業は、「スポーツクラブを中心とした都市経営モデル」の好例であり、人口規模の大小ではなく、「地域資源をどう戦略的に活用するか」が重要であり、鳥栖市の取り組みは他自治体にとっても十分に参考となる事例である。</p>

視察研修先・福岡県筑後市
視察研修項目・「ホークスペースボールパーク筑後における経済活性化」について
報告者・三上まどか
<p>*議員個々の考察と見解*</p> <p>福岡県筑後市に所在する「ホークスペースボールパーク筑後」は、福岡ソフトバンクホークスのファーム（2軍・3軍）本拠地として整備された複合型スポーツ施設である。メイン球場「タマホーム スタジアム筑後」を中心に、室内練習場、サブグラウンド、選手寮、クラブハウス等を備えている。特徴は以下のとおりである。ファーム公式戦やイベント開催により、県内外からの来訪者が増加している。特に休日の試合開催日は家族連れや野球ファンが集まり、地域内消費を喚起している。</p> <p>単なる「観戦」ではなく、「観光」としての位置付けがなされている点が重要であり、福岡ソフトバンクホークスという全国的知名度を有するプロ球団の拠点が存在することは、筑後市のブランド力向上に大きく寄与していると考えられる。</p> <p>施設運営やグッズ販売等において一定の雇用が創出されており、スポーツボランティアや地域イベントへの参加を通じて、住民の参画機会も広がっている。さらに、子ども向け野球教室などの開催により、次世代育成・地域スポーツ振興にも貢献している。</p> <p>課題としては、試合がない日の施設活用をどのように図るかが重要であるが、アマチュア大会や地域イベントのさらなる誘致が必要と考える。また、宿泊施設や観光資源との連携を深め、滞在型消費へと拡大する取組が求められることから、宿泊施設など一体的な地域活性化をどう考えるかは重要である。</p> <p>午後からは当時のファーム本拠地誘致に携わった市議会議員議長やスポーツ協会の方と意見交換したが、市が一体となり誘致に全力を注ぎ、そしてこの地域をどう発展させるのか施策を講じられた話を伺った。ホークスペースボールパーク筑後は、単なるプロ野球の二軍施設ではなく、「スポーツを核とした地域経済循環モデル」の実践例である。視察を通じて、スポーツ施設は単なる公共投資ではなく「戦略的地域経営資源」であると強く感じ、本市にもファイターズファーム本拠地の誘致が出来た際には、ブランド力を活用した交流人口創出など、スポーツを軸とした「滞在型・体験型観光」への発展し、地域産業との連携深化が進めば、さらに持続可能な経済活性化が実現するものと心が躍った。</p>

視察研修先・佐賀県佐賀市

視察研修項目・商店街活性化・わいわいコンテナについて

報告者・川原光男

1, 施設の校正

- 借地の利用
- 街なか再生会議により整備
-

2, 運営体制

- 市より委託「コンテナさが」
- (株)ワークヴィジョンズコンテナリース事業管理

3, 現状

- 地元自治会、街なか再生会議、近隣商店の協力

4, コンセプト

- 住む人・来る人に街を歩かせる

問題点と課題

回遊性の向上に大きな課題があり、接道の歩道幅が狭く子ずれの方々が立ち寄りづらい

経営改善の提案

街なか再生計画には単発では弱い印象であった。

最後に

全体像として、コンテナプロジェクトは木を見て森を見ずの感があり、中央通りトータルデザインの中での連携したプロジェクトであるべきと感じた。

視察研修先・佐賀県鳥栖市

視察研修項目・ホームタウンスポーツと協働したまちづくりについて

報告者・川原光男

1, 施設の構成

- 100億円の投資
- スタジアムは市の所有であり公共施設である
-

2, 運営体制

- 指定管理制度は財団の解散で直営に切り替えた
- サガン鳥栖の運営会社は指定管理者になることは検討していない

3, 現状

- 市の直営で運営しており黒字化するのは難しい
- スタジアムを他の100を超えるアマチアに貸し出しプロ使用は40試合

4, コンセプト

- 優れた集客能力

問題点と課題

管理体制についてスピード感と判断の速さが求められている

まずは、サガン鳥栖の J1 への昇格が安定経営へ全てに物語っている

経営改善の提案

最後に

やはり、歴史のある町、腰を据えた地域性なのか？市への財政負担について鷹揚に対応されている姿に感心したところもある。

視察研修先・佐賀県鳥栖市
視察研修項目・産業団地（仮）サザン鳥栖クロスパークについて
報告者・川原光男
<p>1, 施設の構成</p> <ul style="list-style-type: none">○ スマートインターチェンジ周辺を候補地に○ 県道のアクセス道路整備○ 立地業種は、製造業・情報通信業が4分の3以上を占めるようとした <p>2, 運営体制</p> <ul style="list-style-type: none">○ 地域未来投資促進法を活用した民間開発○ 開発業者が中心となり環境負荷への対応を進める <p>3, 現状</p> <ul style="list-style-type: none">○ 優良農地であるため耕作者への対応や代替え地の対応が必要○ 開発事業者・県の担当者・市の担当者との協議や連携を密に実施している <p>4, コンセプト</p> <ul style="list-style-type: none">○ 市内に大規模な産業用地は無く、新たな企業の進出にこたえることが出来ない状況であり、スピード重視で民間開発で行う
<p>問題点と課題</p> <p>開発用地は農地が殆どであり宅地や、小規模地主が少なく取り組みやすい環境下にある</p>
<p>経営改善の提案</p>
<p>最後に</p> <p>企業誘致について地域の発展に欠かせないとの思いが行政サイドのお話の隅々に聞き取ることが出来、ただ、多大な費用が掛かる先行投資についてしつかりと考えていることが分かった</p>

視察研修先・福岡県筑後市

視察研修項目・ホークスペースボールパーク築後における経済活性化について

報告者・川原光男

1, 施設の構成

- タマホームスタジアム築後
- サブグラウンド
- 屋内練習場

2, 運営体制

- 築後七国共同声明
- 筑後市とホークスによる地域包括連携協定の締結

3, 現状

- ホークスペースボールパーク築後への観光入り込み客数は、127,000～126,300 迄コンスタントに確保
- 経済的効果として来場者による消費活動、選手による消費活動、税収入、市の知名度アップ、
- 社会的効果として青少年の健全育成、スポーツ・健康意識の向上、市民の連帯感や地域活性化、定住・交流人口の拡大

4, コンセプト

- 地域の豊かさ

問題点と課題

駐車場不足の解消、ファーム本拠地周辺の土地利用、選手の増加による敷地のキャパ不足

最後に

20年間の敷地の無償貸与から資金的負担を覚悟をすべきであるが、20年後30年の未来を見据えファームの存在が本市のまちづくりへの影響を想像していく必要があると確信する

筑後市に於ける野球教室、ホークスジュニアとの交流会等などの子どもたちへの良い影響は計り知れないものがあると感じた次第でした

様式 3

視察研修先・佐賀県佐賀市
視察研修項目・「商店街活性化・わいわい!!コンテナ 2」について
報告者・小橋 薫
<p>佐賀市にある「わいわい!!コンテナ 2」は、街なかの賑わいを創出するための交流施設です。かつて賑わっていた呉服元町商店街の活性化を目指し、社会実験として始めました。</p> <p>「空き地リビング」をコンセプトに、様々な機能を持つコンテナが配置されています。</p> <ul style="list-style-type: none">● 読書コンテナ：国内外の雑誌、絵本、マンガを自由に閲覧できます。● 交流コンテナ：イベントやワークショップ、サークル活動などに利用できるマット敷きのスペースです。● チャレンジコンテナ：チャレンジショップやギャラリーとして、市民のアイデアで活用できるスペースです <p>男女兼用トイレと、おむつ交換・授乳スペースを備えています。</p> <p>屋外にはテーブルや椅子が設置された芝生広場もあり、開放的な空間が広がっています。</p> <p>2013 年にはグッドデザイン賞を受賞しています。</p> <p>開設時間：午前 10 時から午後 6 時までです。</p> <p>休館日：毎週月曜日と年末年始（12 月 29 日から 1 月 3 日）です。月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日が休館日となります。</p> <p>利用料金：読書コンテナと、予約なしの交流コンテナ・芝生・ウッドデッキの利用は無料です。チャレンジコンテナや予約制の交流コンテナ、芝生・ウッドデッキの利用には料金がかかります。</p> <p>商店街活性化への貢献</p> <p>「わいわい!!コンテナ 2」の活動を通じて、佐賀市民と商店街との間に新たな交流が生まれ、様々な良い効果が出ています。街なか再生の一環として、多世代交流や多様な活動の拠点となっています。</p> <p>チャレンジコンテナの活用事例</p> <p>ギャラリー：作品展示の場として利用できます。</p> <p>チャレンジショップ：起業を目指す人がお店を出すためのテストマーケティングの場として活用されています。</p> <p>とてもユニークな発想の元での事業展開である。地域活性化の為に知恵を絞っている。本市に置き換えて考えた時に季節及び気候問題の課題が考えられる。行政主導ではなく地域商店街等が声を上げ斬新且つユニークな発想が求められる。又、地域住民のニーズを把握する事が重要と考えます。</p>

視察研修先・佐賀県鳥栖市
視察研修項目・「産業団地(仮)サザン鳥栖クロスパーク」「ホームタウンスポーツと協働した街づくり」について
報告者・小橋 薫
<p>現時点(2026年2月12日)において、「サザン鳥栖クロスパーク」は、佐賀県鳥栖市に開発が進められている次世代の産業団地です。九州自動車道小郡鳥栖南スマートインターチェンジから約600mという好立地を活かし、広大な土地に企業が集積する拠点となります。特に、環境価値と事業効率を最大化する「Green Industrial Park」と「Smart Industrial Park」という2つのコンセプトを軸に開発が進められています。</p> <p>開発概要</p> <p>名称: サザン鳥栖クロスパーク</p> <p>所在地: 佐賀県鳥栖市飯田町、酒井東町、酒井西町</p> <p>面積: 約34ヘクタール</p> <p>アクセス: 九州自動車道 小郡鳥栖南スマートICから約600m</p> <p>造成完了予定: 2030年頃</p> <p>開発事業者: 東急不動産株式会社を代表とするコンソーシアム(日本国土開発株式会社、丸紅株式会社で構成。JR九州も参画)</p> <p>「Green Industrial Park」構想再生可能エネルギー100%: 団地内の使用電力を再生可能エネルギーで賄う「RE100」を目指します。これにより、環境負荷を低減します。ESG評価分析: 九州大学との連携により、ESG評価分析やカーボンクレジット化支援も行われます。</p> <p>「Smart Industrial Park」構想最先端のイノベーションハブ: トラックの自動走行や工場自動化に対応した、最先端のイノベーションハブを目指します。R&D区画: 物流自動化やドローン配送などの実証実験を行うための研究開発(R&D)区画が整備される予定です。</p> <p>DX化: 東急不動産の持つスマートシティ開発のノウハウを活用し、DX(デジタルトランスフォーメーション)化も推進します。</p> <p>このプロジェクトは、鳥栖市が抱える大規模な産業用地不足を解消するとともに、民間活力を活用して迅速に産業用地を創出することを目的としています。また、地域経済への貢献として、造成工事には鳥栖市内に本店を持つ企業の参画も求められています。</p>

サガン鳥栖クロスパークにおける RE100 達成は、区域内全域で再生可能エネルギー100%の電力供給を目指すという具体的な計画に基づいています。これは、「Green Industrial Park」のコンセプトの中心となります。

具体的な計画スマートグリッドの構築：団地内全域にスマートグリッドを構築し、電力の効率的な管理を行います。再生可能エネルギーの活用：東急不動産が保有する再生可能エネルギーによる発電能力と蓄電池事業のノウハウを組み合わせます。PPA（電力購入契約）の導入：電力購入契約（Power Purchase Agreement）を活用し、再生可能エネルギー由来の電力を長期的に安定して供給します東急不動産自体は、2022年には事業所および保有施設の100%再生可能エネルギーへの切り替えを完了し、2024年にはRE100事務局から目標達成の認定を受けています。この実績とノウハウをサガン鳥栖クロスパークの開発にも活かすことで、産業団地全体のRE100達成を目指しています。

進出企業へのメリット企業価値の向上：環境や情報開示への対応が求められる中で、クリーンエネルギー100%で工場を運営できることは、企業のESG評価を高め、企業価値向上に大きく貢献します。脱炭素社会への貢献：サプライチェーン全体の脱炭素化を促進し、持続可能な社会の実現に寄与します。このRE100達成に向けた取り組みは、企業の国内回帰やサプライチェーン強靱化のニーズに応えつつ、脱炭素社会の実現に向けた重要なステップとなります。

この視察により、本市で進めている新工業団地の設計及び将来展望に関しては、官民連携による次の世代に多くの負担及を掛けない努力が必要である。

「ホームタウンスポーツと協働した街づくり」

サガン鳥栖は鳥栖市のホームタウンチームとして、市や地域住民と協力し、様々な活動を通じて街づくりに貢献しています。サガン鳥栖と協働の街づくりサガン鳥栖は、地域に根ざしたクラブを目指し、鳥栖市全域の活性化に貢献しています。

地域との連携活動 スタジアム満員計画小学生の発案で始まった「スタジアムを満員にしたい！」という夢を実現。企業、団体、学校、クラブ、行政が一体で取り組み、最多入場記録を達成。ブリヂストンデー（BSデー） スタジアム満員計画を機に、2007年以降毎年開催。2008年には21,029人の入場者数を記録し、市職員もボランティアで協力。工業高校生との連携生徒が実習で銅板エンブレムを制作。現在、スタジアムの南北ゲートに掲示。市内中学校行事への参加選手が学校行事に参加し、地域との交流を深める。例として、選手2名が合唱コンクールの審査員として参加。サガン鳥栖応援フラッグの掲揚ホームゲーム開催日に街中がサガンカラーに。鳥栖駅前の商店街や市役所玄関に応援フラッグを掲揚。鳥栖市特命応

援団長サガン鳥栖で活躍した高橋義希 SRO が就任。サガン鳥栖の発信力を通じて鳥栖市を PR。

その他の活動 警察署との交通事故防止啓発活動鳥栖警察署と協力し、地域の交通事故防止を啓発。高橋 SRO が一日警察署長として活動。災害支援活動大雨災害時に支援物資を提供。復興支援やホームゲームでの募金活動を実施。パラスポーツへの取り組み パラスポーツ体験会を開催。多様性や共生社会を考えるきっかけ作り。

行政・市民・クラブが連携し地域活性化及びスポーツ振興に邁進している事業形態と捉えます。本市もこの様な先進地事例を参考にすべきである。

視察研修先・福岡県筑後市

視察研修項目・「HAWKS ベースボールパーク筑後における経済活性化」について

報告者・小橋 薫

HAWKS ベースボールパーク筑後（HAWKS ベースボールパーク筑後）は、福岡ソフトバンクホークスのファーム本拠地であり、筑後地域の経済活性化に大きく貢献しています。2026年3月19日に開業10周年を迎えます。

地域活性化の要因

人口増加：筑後市は近隣市町村が人口減少傾向にある中で、2015年から2020年の間に人口が増加しました。この背景には、プロ野球選手や球団関係者が筑後市民となり、高額納税者が増えたことが挙げられます。

プロ野球選手と関係者の転入：福岡ソフトバンクホークスのファーム本拠地が筑後市に移転したことで、選手や球団関係者が筑後市に転入し、市民となりました。これにより、単に居住人口が増加しただけでなく、高額納税者が増え、市の税収にも貢献しています。球場の運営やそれに付随する商業施設（カフェ、グッズショップなど）の展開により、新たな雇用機会が生まれました。これらの仕事に就くために市外から人が移り住むことで、人口が増加したと考えられます。

認知度向上：筑後市はHAWKS ベースボールパーク筑後の誘致によって、全国的な知名度を得ました。

筑後市認知度向上の要因

プロ野球球団のファーム本拠地：福岡ソフトバンクホークスのファーム本拠地が筑後市に移転したことで、全国的なプロ野球ニュースや関連番組を通じて「筑後市」の名前が多くの人の目に触れる機会が増えました。これにより、これまで筑後市を知らなかった層へも認知度が拡大しました。

「無名」からの脱却：球場誘致前は「無名だった筑後市」と表現されることもありましたが、球場の存在が市のアイデンティティとなり、知名度向上の大きなきっかけとなりました。

シティプロモーション：球団のブランド力を活用した市の広報活動が活発に行われるようになりました。これは、筑後市の魅力を全国に発信する強力なツールとなっています。

アクセスと立地：九州新幹線が停まる筑後船小屋駅から球場まで徒歩圏内というアクセスの良さも、来場者の利便性向上に繋がり、市の存在を印象付ける要因となっています。

「選ばれるまち」としての魅力発信：筑後市は、立地の良さやゆとりある空間、子育て支援の充実などを「選ばれる理由」として積極的に発信しており、これが市民だけでなく市外の人々への認知度向上にも繋がっています。

筑後市は、これらの要因を通じて、単なる野球場の所在地としてだけでなく、「住んでよかった、もっと住み続けたい」と感じられるまちとしての魅力を高めています。

シティプロモーション：球団のブランド力を活用した市の広報活動が活発化しています。

新たな雇用の創出：球場の運営や付随するサービスにより、雇用機会が生まれました。

地域連携の取り組み

筑後市とホークスは、地域経済活性化のため様々な連携を図っています。

筑後七国活性化協議会：九州新幹線船小屋駅周辺の活性化、スポーツ振興、特産品 PR などを推進しています。

地域包括連携協定：子どもたちの夢や笑顔、絆を育む「ちくご市こどもの未来応援宣言」と連携し、野球やスポーツを通じて次世代を担う子どもたちを応援する活動を行っています。

観光客誘致の課題：球場への来場者を市中心部や周辺観光地へ誘導することが今後の課題です。

本市で誘致を進めている「日ハムファーム誘致」には経済を中心とし多大な効果が期待できるものと確信します。

視察研修先・佐賀県佐賀市
視察研修項目・商店街活性化・わいわいコンテナ2について
報告者・石井美季
<p>かつての古い町並みから変化させることで、様々な難題の人々が寄りやすくなったと思われる、親しみやすく、可変的で、住民のニーズに素早く反応できる市街地活性化の取り組みです。がちがちに作りこまないことで、より市民の意欲を引き出せる力の源になるのかもしれないと思いました。お話を伺った後、現地も見てみました。この日は休館日で人気はなかったですが、商店街や学校、住宅街からの距離感や、サイズ感、空気感を味わうことができました。</p> <p>取り掛かるための費用が比較的少ないので、施行しやすい事業であると思いました。初代わいわいコンテナで行った社会実験が活かされた2つめということもあり、より多くの人々が興味関心をもって親しんでいるのがうかがわれた。</p> <p>恵庭市で応用するとなると、気候の違いによる課題があるように思いました。</p>

視察研修先 佐賀県鳥栖市
視察研修項目・ホームタウンスポーツと協働したまちづくりについて
報告者・石井美季
<p>鳥栖市はJリーグサガン鳥栖のホームタウンです。</p> <p>もともとは野球が盛んであったが、Jリーグが発足した時に市民のために必ず良い影響があると判断されプロサッカーのまちづくりが始まりました。Jリーグに加盟する厳しい条件をクリアし、日本有数の球技専用スタジアムが誕生したのは平成8年のことでした。</p> <p>フィールドは手入れの行き届いた天然芝で、日本屈指のイングランドスタイルのスタジアムとして世界的にも評価が高いとのこと。特徴としては、鳥栖市から出土した弥生時代の細型銅剣をモチーフにした武骨なデザイン、傾斜角度40度は足がすくむほど急峻であるが選手の息遣いが聴こえそうな圧倒的な臨場感。また1日340便以上の列車が停車するJR駅まで徒歩3分という抜群の立地条件にサガン鳥栖の試合が年間20試合開催で延べ26万人が訪れるということです。市民にとっては身近にプロスポーツの現場があることで夢を現実にするために努力する目標が身近であると推察されます。</p> <p>スタジアムの名前は地元企業のネーミングライツであるが、市の直営であるとのこと。非常に興味深いところでした。直営であることで安定継続したサービスの提供が行えるが、その意思決定に時間がかかるのが課題とのことでした。</p> <p>恵庭市でプロスポーツの誘致を行う際にどのような課題があるのか考えるための基準をいただける視察でした。</p>

視察研修先・佐賀県鳥栖市
視察研修項目・産業団地（仮）サザントスクロスパークについて
報告者・石井美季
<p>サザン鳥栖クロスパークは地域未来投資促進法を活用した新しい産業団地です。</p> <p>小郡鳥栖南スマートインターチェンジ周辺という立地は製造業や情報通信業が4分の3以上を占め、経済波及効果がより高くなる想定だそうです。また、若年層の雇用や市の人口増加にも寄与すると見込まれています。</p> <p>スマートインターチェンジとその周辺の土地の利活用が見事にマッチした事業であることがわかりました。</p> <p>わたしたちのまちで、応用を考えた場合、交通と業種住居との関連をよく見極めながら開発、分譲を計画していくのが望ましいと考えました。</p>

視察研修先 福岡県筑後市
視察研修項目・HAWKS ベースボールパーク筑後における経済活性化について
報告者・石井美季
<p>新幹線と在来線が停車する筑後船小屋駅から徒歩で行ける HAWKS のファーム本拠地施設です。</p> <p>福岡市内にあった元のファーム本拠地施設の老朽化に伴い移転することとなった際に 34 市町の一つとして誘致合戦に名乗りを上げた筑後市。様々な誘致活動の末、成功を収めました。基本協定の締結、地域連携協定の締結を経て、プロスポーツと地域の密接なつながりができ、お互いに良い関係が築かれていると感じました。</p> <p>とにかくプロスポーツの施設があることは「青少年にみせる」ことのハードルを下げ、若い世代の夢を現実にする努力の後押しになる、という考えに感銘を受けました。一流のものに触れる機会があるということは、どんなジャンルにも応用できる考えを持つことができます。</p> <p>遠くの星のように見えていた「プロスポーツ」が手に届く距離で観察できる環境は市民の生活に良い影響がたくさんあるだろうと思います。</p>

視察研修先・佐賀県 佐賀市
視察研修項目・「商店街活性化・わいわいコンテナ」プロジェクトについて
報告者・民主・春風の会 澁谷敏明
<p>【視察研修内容】</p> <p>研修に先立ち、佐賀市議会倉持事務局長より、佐賀市の概要説明を受けた。</p> <p>その後、上記研修テーマに沿って、佐賀市経済部中心市街地振興室土田再生係長より説明を受ける。</p> <p>佐賀市は、平成 17 年、19 年と近隣町村と合併し、人口は 225,000 人程度、面積は 431 km²で 40%が山林に囲まれ、佐賀平野では農業が盛んに行われ、漁業では有明海沿岸で生産される有明海産のりは有名なところである。</p> <p>佐賀市では、人口減少や高齢化社会、労働人口の減少、空き地の増加などの社会問題解決に向けて「中心市街地活性化基本計画」を策定し、更に具体的な「街なか再生計画」を作り中心市街地の活性化対策の取組として、歩いて暮らせるまちづくり、気軽に休憩できる場所の提供など、空き地の有効活用と街なかの回遊性向上を図る社会実験としてコンテナプロジェクトを実施。平成 23 年より少ない予算ですぐに実現でき、中心市街地の活性化につなげているとのこと。現在では、第 2 弾の取組になっており、社会実験の段階から 14 年間継続した事業となっている。</p> <p>【考察】</p> <p>昔は、賑わいをみせていた中心街も時代とともにシャッター街となって店舗も減り人通りがなくなり人が集まる場所がなくなった状況の中、収益を上げる目的ではなく人が集まることを目的としてのプロジェクト。現在では、空き地・空き店舗となった場所に出店者も増えてきており賑わいが戻ってきている。平日はそれほどでもないとのことであるが、土日などはイベントが開催され家族連れなど多くの市民が足を運んでいるとのことである。</p> <p>当市においても、商店街や飲食店街など減って、マンションなどの住宅が建っている状況です。人口が増えているので住宅の供給はもちろん重要ですが、人が集まる場所や賑わいが欲しいと感じています。今回の佐賀市を参考に、恵庭市でも人の集まる賑わいづくりに取り組んでいかなければならないと感じました。</p>

視察研修先・佐賀県 鳥栖市
視察研修項目・ホームタウンスポーツと協働したまちづくり・産業団地（仮）サザン鳥栖クロスパークについて
報告者・民主・春風の会 澁谷敏明
<p>【視察研修内容】</p> <p>サッカーＪリーグ「サガン鳥栖」のホームスタジアムの「駅前不動産スタジアム」で鳥栖市江下議会事務局長、時田スポーツ振興課課長補佐より説明を受けた。</p> <p>鳥栖市は、佐賀県の東端、福岡県との境に位置し、昭和 29 年に 2 町 3 村と合併し 75,000 人ほどの人口で恵庭市と人口規模は同程度。鉄道や高速道路が交差する交通の要衝として発展してきており、当時の市長の発案で、もともと国鉄の敷地だった用地を取得し、「野球のまち」から「サッカーのまち」へと舵を切る。市の年間予算が 140 億円であったが 100 億円を投じて市民の反対も受けつつ、サッカーチームの誘致、スタジアムの整備を進め、平成 9 年スタジアムを完成させた。スタジアムの管理運営については指定管理者制度を導入していたが、職員の身分保障の理由により現在は市直営で運営している。</p> <p>午後からは鳥栖市役所に場所を移して産業団地（仮）サザン鳥栖クロスパーク開発事業について説明を受けた。市内に工業団地の空きがなく進出したい企業の要望に応えることができない状況下であったところ県道アクセス道路にインターチェンジが開通する計画が持ち上がり、新たな産業団地をインターチェンジに隣接する場所に計画。土地は農地のため転用等が必要で県と市と開発事業者が協力して事業を進めている。用地取得や交渉、販売価格等はすべて開発事業者が行い、民間提案をベースに市と協議して作成する事業計画に基づいて民間開発で実施。</p> <p>【考察】</p> <p>人口 7 万人のまちが、サッカーの素地もないところから市民、議会の理解なくしては成りえなかった大プロジェクト事業を成功させたことに驚くばかりである。</p> <p>交通の利便性の観点で、鳥栖市と恵庭市は類似しており、工業団地においても空きがない状況は似ており、現在恵庭市が進めている工業団地開発計画においては参考になることが多くあると思われる。プロ野球のファーム施設の誘致やラピダス進出に伴う工業団地の整備など鳥栖市の取組を参考にして恵庭市のまちづくりを進めていければと思いました。</p>

視察研修先・福岡県 筑後市
視察研修項目・hawks ベ이스ボールパーク筑後における経済活性化について
報告者・民主・春風の会 澁谷敏明
<p>【視察研修内容】</p> <p>ホークスファーム球場「タマホームスタジアム筑後」を会場に、小林筑後市議会事務局より市の概要説明の後、施設内見学。その後、水田ホークスファーム連携推進担当係長より説明を受ける。</p> <p>筑後市は、福岡県南部の筑後平野の中心に位置し、農業地域は広がる田園都市で人口は 48,827 人（令和 2 年国勢調査）で交通アクセスに恵まれており人口は微増の状況。</p> <p>平成 25 年夏に、ソフトバンクホークスが福岡市にあったファーム施設の老朽化に伴って移転を検討し自治体に用地募集を実施。その結果、5 県 34 市町が名乗りを上げ、筑後市においては誘致に対して市、議会が一体となり市民の声を球団に伝えるため署名活動を開始し、住民数を超える 76,084 人の署名を集める。その結果、4 市（福岡市、北九州市、宮若市、筑後市）が一次審査を通過。その後、筑後市近隣自治体で組織した「筑後 7 国」を立ち上げ一致団結して誘致活動を大々的に進めた。その結果、この冬にファーム本拠地が筑後市に決定。決定後、筑後市の地域活性化や市民サービスの向上を図ることを目的として、市とホークスとの間で地域包括連携協定を締結。選手の学校訪問や巡回スポーツ教室、地域との交流の集い、選手の地域体験などいろいろな取り組みを行って地域活性化の向上を図っている。</p> <p>【考察】</p> <p>ファーム本拠地が移転したことにより、来場者による消費活動の増、選手、スタッフによる消費活動の増、住民票を市に移すことによる選手、スタッフの住民税の収入、観光客への宣伝効果などの経済的効果や青少年の健全育成、スポーツ健康意識の向上効果、市民の連帯感や地域活性化、定住、交流人口の拡大など社会的効果も向上し、まちが大きく飛躍している。恵庭市では商工会議所が後援会を結成し誘致活動を進めているが、市も一丸となって誘致活動を進めなければならないと感じた。今年の 6 月には移転地決定予定となっており、今後、市、議会、市民が盛り上げていかなければ夢に終わってしまう。とにかくできることから進めましょう。</p>

視察研修先・佐賀県佐賀市
視察研修項目・「商店街活性化・わいわいコンテナ2」について
報告者・小林卓矢
<p>1・視察の目的</p> <p>恵庭市における市街地活性化の検討にあたり、佐賀市の「商店街活性化・わいわいコンテナ2」が、空き店舗対策や来街者増加、若手・新規出店者の育成にどのように寄与しているかを確認するために視察を行った。事業スキーム、運営体制、出店者支援策、周辺商店街との連携、財源構成・採算性を把握し、恵庭市の活性化につなげることを目的とした。</p> <p>2・市の概要</p> <p>佐賀市は人口約 23 万人の県庁所在地であり、行政機能と商業機能が集積する地方中核都市である。中心市街地にはアーケード商店街が広がる一方、郊外型商業施設の進出や人口減少に伴い空き店舗の増加や来街者減少が課題となっている。市はリノベーションまちづくりや官民連携によるエリア再生に積極的に取り組んでおり、その一環としてコンテナ型商業施設事業を推進している。</p> <p>3・事業の概要</p> <p>空き地を活用して設置されたコンテナ型の施設であり、「まちづくり機構ユマニテさが」が運営する施設です。読書・交流コンテナの設置や、イベント開催を通じて中心市街地の賑わい創出に世代間交流の場を提供しています。チャレンジコンテナを設置し、創業を後押ししている点が特徴である。共用スペースでのイベント開催やキッチンカーとの連携により回遊性を高め、周辺商店街との相乗効果を図っている。運営面では、テナント間の連携企画や SNS 発信の支援などソフト事業も重視している。</p> <p>4・恵庭市でも反映すべき事項</p> <p>空き地等を活用した小規模なコンテナ型拠点を整備し、低リスクでの創業・実験の場を提供する仕組みは、恵庭市の賑わいづくりに有効と考えます。市単独ではなく、商工会議所や民間事業者を含む運営主体を構築し、家賃設定やテナントミックスを戦略的に行う点は参考になる。イベントやキッチンカーなどと一体的に運営し、通年で来恵および市民利用の動機を生む要素となり得る可能性があると考えます。短期出店・期間限定ショップを受け入れる柔軟な運用ルールを設けることで、恵庭市においても多様なチャレンジを誘発し、将来的な本格出店や空き店舗活用につなげられると考えます。</p>

視察研修先・佐賀県鳥栖市
視察研修項目・「産業団地（仮）サザンクロスパーク」について ・「ホームタウンスポーツと協働したまちづくりについて」
報告者・小林卓矢
<p>1・視察の目的</p> <p>プロスポーツチーム等との連携によるまちづくりの高度化を図るため、「産業団地(仮)サザン鳥栖クロスパーク」の立地戦略・運営手法と、鳥栖市がホームタウン(プロサッカークラブ等)と協働して進める地域活性化施策を学び、恵庭市の北海道日本ハムファイターズの二軍誘致の可能性の先の新たな発展につなげることを目的として実施した。</p> <p>2・市の概要</p> <p>鳥栖市は人口約7万4千人で、佐賀県東部、福岡県境に位置する交通結節都市であり、九州自動車道・長崎自動車道、JR 鹿児島本線などが交差する物流拠点である。人口規模は中小都市ながら、広域からのアクセス性に優れ、流通業・製造業・サービス業が集積している。プロサッカークラブを核としたスポーツ文化が浸透し、市民の愛着と都市ブランド向上に寄与している。</p> <p>3・事業の概要</p> <p>サザン鳥栖クロスパークは、高速道路 IC 至近という立地特性を生かした産業団地であり、物流・製造・IT 関連など複数業種の集積を想定したゾーニングが行われている。インフラ整備を先行させつ、自治体と民間デベロッパーが役割分担しながら用地造成・企業誘致を推進している点が特徴である。併せて、ホームタウンとの連携により、スタジアム周辺や市街地でのイベント・交流拠点づくり、ユニフォームやロゴを活用した一体的なブランド発信が行われ、企業・来訪者・市民が交わる場の創出が図られている。</p> <p>4・2軍誘致に成功した場合に恵庭市でも反映すべき事項</p> <p>地域ブランドやスポーツ・文化との連携を組み込んだ設計をする視点が重要であると考えます。プロスポーツチーム等との包括連携協定を通じて、市民参加型イベントや、企業との連携プログラム、市内小中学校での選手との交流など、都市イメージ向上施策を一体的に進める仕組みを重要視すべきであると考えます。行政・民間・クラブの協働体制を早期に構築し、企画段階から情報共有と合意形成を図ること必要と考えます。。</p>

視察研修先・福岡県筑後市
視察研修項目・「HAWKS ベースボールパーク筑後における経済活性化について」
報告者・小林卓矢
<p>1・視察の目的</p> <p>HAWKS ベースボールパーク筑後が、プロ野球ファーム拠点として地域の交流人口・関係人口を拡大し、周辺産業やまちづくりにどのような波及効果を生んでいるかを把握することを目的とした。特に、民間球団との連携の仕組み、施設整備と周辺開発の関係、雇用・観光・ブランド力向上などの経済活性化の効果を把握し、恵庭市の北海道日本ハムファイターズ2軍誘致の可能性におけるスポーツ・交流拠点づくりなどの検討材料とすることを狙いとした。</p> <p>2・市の概要</p> <p>筑後市は福岡県南部に位置し、人口約4万9千人規模の地方都市である。九州新幹線や高速道路ICに近く、福岡市・久留米市といった都市圏へのアクセス性が高い一方で、農業を基盤とした田園的な景観も有している。こうした「交通結節性」と「地方都市のゆとり」を併せ持つ立地特性を生かし、スポーツ・観光と農産物や地場産業を組み合わせた地域振興を進めている点が特徴である。</p> <p>3・事業の概要</p> <p>HAWKS ベースボールパーク筑後は、福岡ソフトバンクホークスのファーム本拠地兼トレーニング拠点として整備されたスタジアム・屋内練習場等の複合施設である。市は用地・インフラ整備等を行い、球団が施設運営を担う官民連携スキームとなっている。年間を通じてウエスタン・リーグ公式戦やイベントが開催され、来場者に向けた飲食・物販、周辺の宿泊施設や農産物直売所との連携により、観戦+観光・買い物の周遊消費を創出している。また、学校・地域団体との交流事業や野球教室などを通じ、子どものスポーツ振興や市民のシビックプライド醸成にも寄与している。</p> <p>4・二軍誘致に至った場合に、恵庭市でも反映すべき事項</p> <p>恵庭市の交通利便性と環境を生かした観光およびスポーツ振興などとの複合型交流拠点づくりが挙げられると考えます。プロ球団に限らず、大学・社会人チーム等との連携による合宿・大会誘致と、地場産品・飲食・温浴施設を一体的に配置することで周遊消費を高める手法は参考になるものと考えます。官民連携においては、事業リスクを分散し、市民が損をしないよう地域への利益を確保する施策を検討すべきであると考えます。学校・地域団体との連携プログラムを組み込むことで、市民が「自分たちの拠点」と感じられるスポーツタウンづくりを推進する必要があり、これらを踏まえ、恵庭版のスポーツ・交流拠点構想へと発展させていくことが重要であると考えます。</p>